

地域と地域が連携して郷土芸能を再興。

綾織町第4区・第5区 郷土芸能保存会

本当に、郷土芸能は地域の宝だと思う。



事務局長
千葉 重男 さん
(58歳、綾織町)

かつて私達の地域では、山口太神楽と遠野郷南部田植え踊りを二つの保存会で別々に継承していましたが、少子高齢化の影響で担い手が減少し、ここ10年ぐらいい互いに人を融通し合うなどして活動していました。特に、田植え踊りは太鼓や踊りを教えられる人がなくなり、活動も停滞していました。このまま廃れさせるわけにはいかないと、地域で話し合いを持ち、二つの保存会を合併して継承体制を再構築することにしました。

今年5月に合併した後は、両地区の全戸に声掛けをして担い手を改めて募集。また、「楽しく、短時間で」を合言葉に練習を定期化しました。活動体制が整ったことで、子ども

たちはもちろんのこと、若者や子育てがひと段落した親世代も参加してくれるようになりました。今年8月には、田植え踊りが遠野遺産に認定され、活動がますます盛り上がっています。郷土への愛着も強くなりました。

練習が始まる前に子どもたちが公民館の中を飛び回って遊ぶ、子どもからお年寄りまで一緒になって郷土芸能を楽しむ、そんな姿が戻ってきています。郷土芸能を通じて地域間の絆も深まりました。本当に、郷土芸能は地域の宝だと思います。子どもの頃に踊ったという経験は一生もの。大人になって綾織を離れても、祭りの時には帰って来て一緒に踊ってほしいような場にしていきたいですね。

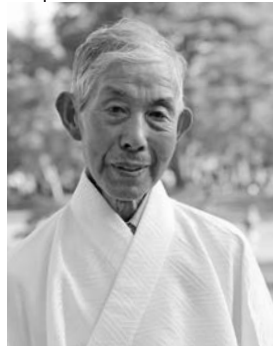


1_一時は途絶えかけた遠野郷南部田植え踊り。遠野祭りでは華麗な踊りを披露した
2_親子で参加 3_練習の一コマ。楽しみながら活動している姿が印象的だ



千葉 光顕 さん
(遠野緑峰高3年)

幼い頃から慣れ親しんだ踊りが、再び盛り上がり嬉しそうです。後輩に指導する立場にもなり、やりがいを感じています。市外への就職が決まったけれど、練習や祭りの際には綾織に帰ってきて、地域の皆さんと一緒に踊りたいと思っています。



会長
鈴木 廣志 さん
(84歳、附馬牛町)

県内外から担い手を受け入れ、郷土の誇りを継承。

大出早池峰神楽保存会

伝統は伝えてこそ、価値がある。

大出早池峰神楽は、約1,200年の歴史があるとされ、大出集落で脈々と受け継がれてきました。私も幼い頃、祖父と父親から手ほどきを受けました。二人が舞って見せる時、その荘厳で幻想的な姿に、幼心にも本当に神様が舞い降りているように見えたものです。

私が若手として盛んに神楽を披露していた頃、戦後の開拓で大出集落はにぎわっていましたが、林業と農業の衰退により徐々に住民が減少。気付けば神楽のできる地元住民は私を含め数人という状態になっていました。そして、存続に危機感を募らせていた時、神楽を観て感動した市外の青年が「私にも教えてください」と言ってくれたのです。今では大出に移住し、担い手として活躍している千葉

和さんでした。大出早池峰神楽は地元民が舞う掟がありましたが、私の代で地域の誇りを途絶えさせるわけにはいかないと、伝えることを決意したのです。

以来、私たち保存会は、神楽を学びたいという人であれば誰でも積極的に受け入れています。今では遠野まつりや早池峰神社の例祭の時に、教え子たちが県内外から駆け付け、舞ってくれるようになりました。また、歴史ある神楽を観たいと多くの人々が訪れてくれるようになり、大出集落は観光名所としてにぎわいを増しています。伝統は、伝えてこそ価値があるのではないのでしょうか。地元の人々がふるさとに誇りを持ち、郷土愛を育む財産として、神楽を後世に残していきたいですね。



千葉 和 さん
(51歳、附馬牛町)



1_遠野まつりには東京都などから3人が駆け付け、夜神楽などを披露 2_神が舞い降りた瞬間 3_遠野郷八幡宮で舞を披露する和さんら

郷土の宝

郷土芸能は郷土の宝だ。しかし、過疎化や少子高齢化により、伝統の継承が難しくなっている。時代に合せてスタイルを変え、活性化に成功した2つの団体の取り組みを追った。

過去最多の影で

今回の遠野まつりには、過去最多となる64の郷土芸能団体が市内から参加した。本市の人口が減少傾向であるにもかかわらず、数が増えていることは奇跡だ。遠野の人々が地元の伝統文化を愛し、今なお大切に継承していることを物語っている。一方で、少子高齢化などによる担い手不足は、伝統の継承を難しくしていることも事実だ。

新たなカタチ

地域の宝を途絶えさせまいと立ち上がった団体がある。大出早池峰神楽保存会と綾織町第4区・第5区郷土芸能保存会だ。市外の担い手を積極的に受け入れたり、地域間で連携したりすることで継承活動を盛り上げ、地域の活性化につなげている。二つの団体の事例は、今後の継承活動のヒントになるかもしれない。

郷土芸能のチカラ

郷土芸能の継承活動は、地域づくりそのものだ。楽しみながら練習や祭りに参加するうちに、自然と世代間の交流が深まり、地域の絆は強くなる。「芸能」そのものというよりも、人から人へ「伝える」という過程が、地域の人間関係を豊かにしているのだ。少子高齢化が進み、地域コミュニティのあり方が問われている現在、郷土芸能の継承活動が果たす役割は大きくなっていく。郷土芸能は、先人たちが残してくれた郷土の「宝」だ。その「宝」をどのように地域づくりに生かしていくのかは、私たちにしかかっている。